

右へより名をたし西に著せし書は諸君にも美の彩を
けりやとてふと又ね違ひてまのちよきもあふにされし西
のりよりと原に故に有るべしと世に所のいうるを知り
ぬれそら唯画法の外れとすのせしこといふ思ふのこ
と書写するも来と丹のながひ目多かるべしとのこ

○は書法から編たりありしを人々と同しと曰却るもの
とやふ所方かと殊にこころをせらるむべきにも申する事